

低温開花性花き(スカビオサ・ニゲラ)の栽培技術

福島県農業試験場 いわき支場

平成13～15年度福島県農業試験場試験成績概要

分類コード 05-26-18000000

部門名 花き—その他の1・2年草—作型・栽培型

担当者 諏訪理恵子・矢吹隆夫

I 新技術の解説

1 要旨

本県主要花きの出荷時期は、ほとんどが夏秋期の6～9月に集中しており、他の時期の生産が少ない状況にある。このため、本県の気象条件を活かしながら、比較的低コストで栽培が可能な補完品目を導入し、10月～5月における冬春期生産の拡大を図っていく必要がある。このことから、本来夏期に開花するスカビオサ、ニゲラの低温開花性に着目し、冬春期に出荷できる栽培技術を開発した。

- (1) スカビオサは、7月上旬に播種し8月中旬に定植すると11月から長期間連続して切り花が可能である。また、仕立て方法は摘心栽培が適している。
- (2) ニゲラは、8月上旬に播種し9月中旬に定植すると11月から品質の良い切り花が得られる。また、仕立て方法は、無摘心栽培でよい。

2 期待される効果

- (1) 播種適期および仕立て方法が明らかになったことで、スカビオサ、ニゲラの冬春期出荷が可能となる。
- (2) 夏秋期中心に出荷される主要花きとの組み合わせにより、花きの周年供給が可能となる。

3 適用範囲

県内全域

4 普及上の留意点

保温及び補助暖房により、最低夜温を5℃程度に保つよう温度管理を行う。

II 具体的データ等



スカビオサ（マツムシソウ科）

は種時期は7月上旬がよい

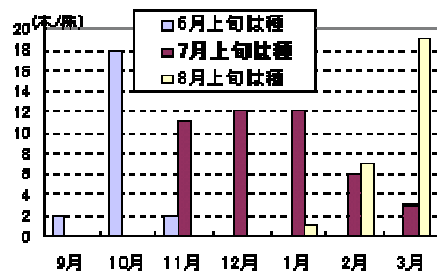


図1 スカビオサのは種時期の違いと月別切り花本数

仕立て方法は摘心がよい

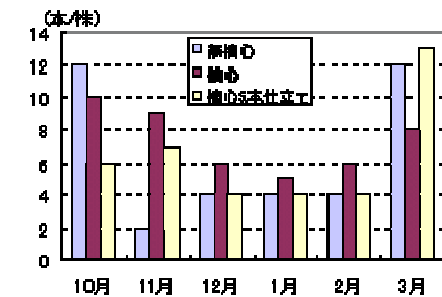


図2 スカビオサの仕立て方法の違いと月別切り花本数



ニゲラ（キンボウゲ科）

は種時期は8月上旬がよい

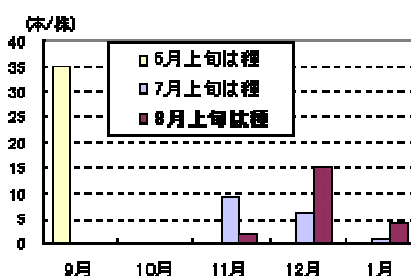


図3 ニゲラのは種時期の違いと月別切り花本数

仕立て方法は無摘心でよい

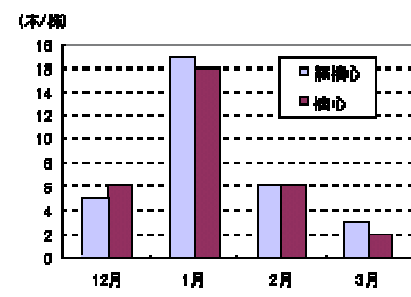


図4 ニゲラの仕立て方法の違いと月別切り花本数

開発した作型例

作 型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
スカビオサ 秋冬出し							○	⊗	×	#		↑
ニゲラ 秋冬出し							○	⊗	#		↑	

○：播種 ⊗：定植 ×：摘心 #：ネット張り []：収穫期間
☆：電照開始 ★：電照終了 ↑：加温開始 ↓：加温終了

Ⅲ その他

1 執筆者

諏訪理恵子、矢吹隆夫、安斎正典

2 主な参考文献・資料

なし